

あさひ便り



島充弘さんはアンチヒーローの雄だった

野崎忠郎

(ぐるうぶ・はこび屋)

一九六七年、美濃部亮吉氏が東京都知事選に当選した。その時期、世界の政治地図は米ソ両陣営に二分された冷戦構造に色分けされていた。国内の政治勢力も保守革新に分かれて厳しい対立を続けていた。首都東京の知事の座は戦後一貫して保守陣営が占めていが、戦後二十二年目にして初めて保守の牙城を突き崩して東京都知事となった美濃部氏は、いちやく時代のヒーローとなった。さっそうとして知事の座に座った新知事は、福祉を都政第一の政策にすると宣言した。その時期、障害者福祉政策はまだ都政の中で主要な位置をしめていなかった。障害者の能力判定や処遇を決める「心身障害者福祉センター」という大きなビルが建てられ、国立大学医学部教授が所長として迎えられた。続いて大きな障害者施設が都内各地に次々に建てられていった。まだ住宅事情が悪く、成人した障害者を抱えた家族が狭い家で暮らすことの困難という事情が背景としてはあった。

その時、美濃部知事の福祉政策に真っ向から反対し、挑戦したのは脳性麻痺者を中心にした「青い芝の会」の人達だった。彼らの主張は、「自分達は強権的に施設に入れられて管理される生活は望まない。自分の生まれ育った地域で、地域の一員として生きていきたい」ということに集約されていた。福祉を都政の目玉にした美濃部知事が時代のヒーローならその都政に真っ向から対立した「青い芝の会」はアンチヒーローだったといえる。

その頃、アンチヒーローと呼ばれる人達が様々な分野に登場し始めていた。その分野のひとつはフィクションだった。あしたのジョー、のたり松太郎、ゴルゴサターンなどは劇画の中のアンチヒーローであり、唐獅子牡丹、網走番外地で縦横に活躍する高倉健は映画の世界でのアンチヒーローの雄だった。既成の価値観や社会制度に果敢に挑戦していくアンチヒーローは学生運動を通して最も激しく、巨大と言っている形態で現れた。その一部の人達は「青い芝の会」の運動を支持し、共闘していた。だが学生運動は次第に方向を見失い、四分五裂し、最後は仲間同士のテロ殺人、ハイジャックなど自爆的行動を繰り返して自滅していった。

その時、島充弘さんは山梨の荒蕪地で、たったひとりで鋤をふるい、オンボロトラックで古材を集め、鶏小屋や豚小屋を作っていた。島さんはどんなスローガンも掲げず、ビラもまかず、立て看板も立てず、たったひとりで



島と共に歩んだ、トンちゃん

障害者の暮らしと労働の場を黙々と作り続けていた。既に「青い芝の会」の挑戦は破れ、重度身体障害者の療護施設が都内各地に造られていた。「地域の一員として、当たり前の暮らしをしたい」という障害者の血の叫びは、学生運動をはじめとした社会運動の退潮とともに抑圧されてしまったのだった。島さんはそんな事情をすべて知っているはずだったが、それらの話題に触れることも、まして自分から言い出すことは全くなかった。言葉ではなく、行動だけが現実の中の壁を突破すること、そしてそのことに関して権力側の助力を期待しても決して壁は破れないことを、島さんは解りすぎるほどはっきりと解っていた。そうやって切り拓かれていった「あさひ」に三人、五人と障害者が迎え入れられていったが、その人達にも島さんは他人や役所に頼らず、自らの力で築いていく現実だけが自らの人生を造っていくということを、無言で教え続けていった。島さんの背中を追い、島さんの背中を見ながら共に働く障害を負う人達もまた、そうやって自らの現実を造りだしていった。

この人達こそが本当のアンチヒーローだと、私は島さんを先頭にして厳しい現実に取り組み続けているあさひの人達を見ながら思った。フィクションの中のアンチヒーローは言うに及ばず、声高にスローガンを掲げ、対都交渉だ、デモ行進だと出来るだけ目立つ行動を繰り返している現実のアンチヒーロー達が、結局は官僚の手練手管に操られるようにして権力側のシステムの中に組み込まれていく中、権力、行政からきっぱりと身を離し、ひたすら泥にまみれて働く続けた島さんとあさひの人達は、二十年、三十年後には遂に現実の壁を突き破り、「青い芝の会」の人達の血の叫びを実現させた。そして島さんは力尽きて倒れ、帰らぬ人となった。けれど島さんが逝った後のあさひとそこで生き続ける人たちの心の中には、何物にも代えがたい遺産が残されているはずだ。

島さんの一周忌が過ぎた頃から、私は体調を崩すことがたび重なり、体力が落ち、もはやあさひを訪れることもままならない。けれど私の中にある島さんから与えられたものは、いささかも輝きを失っていない。それは私にとって人生最大の宝物であり、それをしっかりと心に抱いて、島さんの後を追おうと思う。



初期の頃の鶏小屋



子ども達と共に

社会福祉法人聖家族の家 シスター檀山

1935年10月 48日間の船旅を終えて聖ビンセンシア・パウロの愛徳姉妹会のシスター6人が初めて日本の地を踏みました。世界的恐慌、度重なる戦争で経済状況は悪化し多くの生活困窮者があふれ、悲惨な状況にある人々を支援するためパリ本部から派遣されたのです。

愛徳姉妹会は17世紀、戦乱に明け暮れ疲弊し荒廃状態にあるフランスで貧しい人々の叫びに応えて、聖ビンセンシオと聖ルイズによって創立され、戦場、農村、収容所、あらゆる貧しい現場でシスター達は活躍しました。都市や上流社会中心に動いていた教会が貧しい人々に向かう革命的な動きとなり、ヨーロッパそして全世界へと広がったのです。

来日したシスター達は大阪を中心に活動し、セツルメントや病院を開設。第二次世界大戦勃発と共に敵国人として迫害を受けながら、戦争によって親を失った子供たちのための世話に献身し、多くの方々の協力を得て増え続ける戦災孤児の生活の場を現在の地に確保し児童養護施設「聖家族の家」と乳児院「聖母託児園」を開設し今日に至っています。社会状況の変化に伴って入所理由（養育能力の未熟さ・精神疾患・拘束・虐待・貧困・依存症・その他）



は様々に変化してきていますが、聖家族の家には定員148人、聖母託児園は定員50人が生活しています。少子化社会と言われる時代にあって施設を必要とする子供たちがこんなにも大勢います！！・・・。生活単位が小規模化され、



高校進学や趣味の習い事、塾の利用も可能で生活環境はかなり改善されてきていますが、親との絆を失って生きる子供たちの寂しさは私たちの想像を超えるものがあります。生活指導

員、保育士、看護師、ケースワーカー、心理士、等々多様な職種が連携し子供たちの養育や家族の再構築に取り組んでいます。あさひ福祉作業所と同じく、地域やボランティアの方々からも多くの支援を受けて、社会全体が子供に関わる形に向かっています。現在の私たちの課題は開設 80 年近くを経てシスター達は高齢化と共に人数は減少してきており、その中であらゆる機会を活用して子ども達や職員に一人ひとりをかけがえのない存在として愛しておられる神様を伝え、神様の守りと導きの中で生きていくよう励ますことに力を注いでいます。赤ちゃんの時から高校卒業まで施設で生活し社会へ巣立ち、転職、結婚、離婚・・・やっと漁業の仕事に就労した青年が 1 年前の冬、漁船から転落死亡しました。彼の住まいを整理に行った職員が、雑然とした狭い部屋の片隅の戸棚の上にマリア様のご像が飾られているのを見つけました。生活の場を次々に変えながらもマリア像を大切に持ち運び、孤独な厳しい生活の拠り所としていたのでしょう。僕らはキリスト教の中で育ったのだから、葬儀は絶対にキリスト教でして欲しいと共に施設で育った兄の強い願いに応えて、多くの仲間と共にささやかな心のこもった葬儀を施設で行うことが出来ました。

施設での生活の中では宗教には無関心のように見える子供たちも、やはり神様を支えとして生き抜いていることを教えられまた励まされました。また苦しい状況を生きている子ども達だからこそ神様が力強く見守り支えて下さっていることも感じます。自分の人生がどんな形であれ、神に愛されているかけがえのない存在であることを信じ、一人一人が命を輝かせて自分の生涯を大切に生きぬいていけるよう精一杯応援したいと願っています。あさひ作業所の皆様の願いときっと同じだと思います。これからも共に手を取り合って歩んで参りましょう。

女が自分の乳飲み子を 忘れるであろうか。

母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。

たとえ、女たちが忘れようとも

わたしがあなたを忘れることは決してない。 (イザヤ 49)

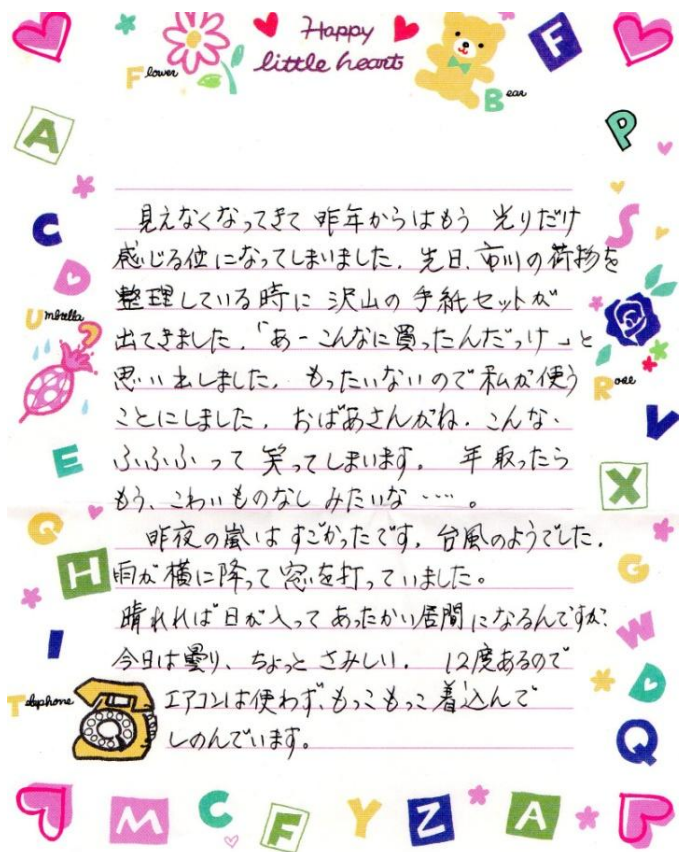


下地さんのお便り

島 武代

私宛のお手紙ですが、ダウン症の娘さんと山あり谷ありの人生を歩まれているお母様、とてもほのぼのとしたお二人の日々を、どうぞ皆様も一緒にお読みください。

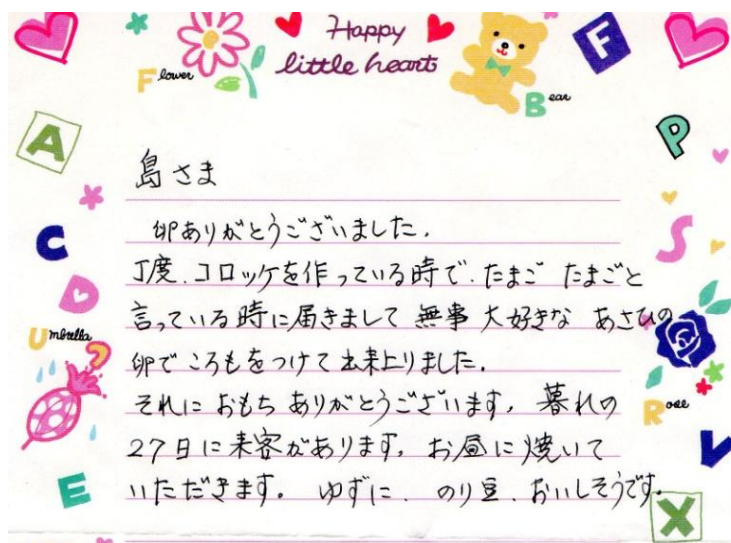
(掲載について下地様の許可はいただいております)



見えなくなってきた 昨年からはもう 光りだけ感じる位になってしまいました。先日、市川の荷物を整理している時に 沢山の手紙セットが 出てきました。「あーこんなに買ったんだってー」と 思い出しました。もったいないので私が使う ことにしました。おばあさんがね。こんな、 ふいふって 笑ってしまいます。年取ったら もう、こわいものなしてみたいな……。

昨夜の嵐はすごかったです。台風のようにでした。 雨が横に降って窓を打っていました。

晴れば日が入ってあたたかい居間になるんですね。 今日曇り、ちょっとさみしい。12度あるので エアコンは使わず、もっこもこ着込んで しのんでいます。

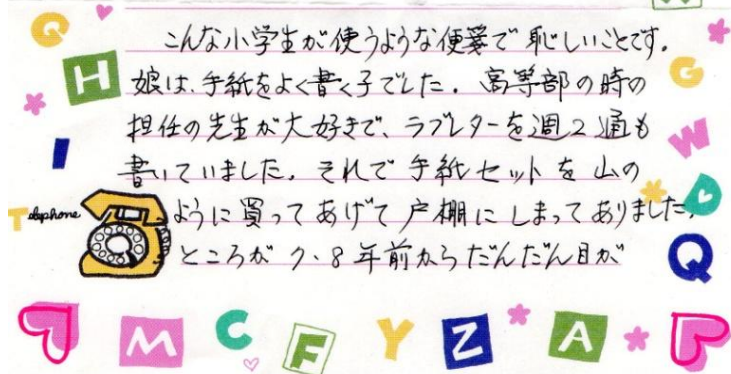


島さま

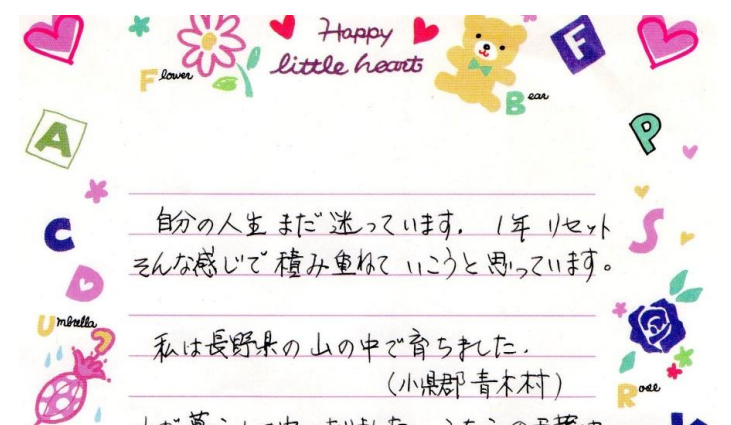
卵ありがとうございます。

丁度、コロッケを作っている時で、たまご たまごと言っている時に届きまして 無事大好きな あさひの卵でころもをつけてお楽しみしました。

それにおもちありがとうございます。暮れの27日に来客があります。お昼に焼いていただきます。ゆずは、のり豆、おいしそうです。



こんな小学生が使うような便箋で 恥しいけど、娘は、手紙をよく書く子でした。高等部の時の担任の先生が大好きで、ラフターを週2通も書いていました。それで手紙セットを山の様に買ってあげて戸棚にしまっていました。ところが、7・8年前からたんたん目か



自分の人生まだ迷っています。1年リセット そんな感じで 積み重ねて いろいろと思っています。

私は長野県の山の中で育ちました。
(小県郡青木村)

山が暮らしの中におりました。こちらの千葉は平野で山がありません。空は広くよく見渡せるのですが、いつも窓からの景色を見ては、「あー 遠くにてもいい山があったらなあー」と 思っています。たまに雪の形の山さくりな時あります。遠くに山が見える、そう錯覚するとほっとします。

こんなかわい過ぎる手紙セットで 失礼しました。

下地峰子



第9回あさひ交流会のご報告

今年の春の交流会は、あいにくの雨模様ということもあり新しく建て替えられた倉庫を会場としてのお披露目も兼ねての会となりました。昨年よりはじめました桜咲く道のスタンプシーラリーや落語会、輪投げ、そしてあさひならではの卵のつかみ取りなどを楽しんでいただきました。

皆さんお楽しみの食事は・・・春の巻き寿司弁当、本場仕込みのネパールカレー、豚汁とおはぎなど心もお腹も春を満喫していただきました。

GreenT ASAHI

平成26年2月の雪害により倉庫がこわれ、その建設費は国と県の助成90%でまかなわれました。残り10%はGreenT(株)の寄付を受け、りっぱな倉庫建設となりました。



動詞「ぶつかる」

ある朝
テレビの画面に
映し出された一人の娘さん
日本で最初の盲人電話交換手

その目は
外界を吸収できず
光を 明るく反映していた
何年か前に失明したという その目は

司会者が 通勤ぶりを紹介した
「出勤第一日目だけ お母さんに付き添ってもらい
そのあとは
ずっと一人で通勤してらっしゃるそうです」

「お勤めを始められて 今日で一ヶ月
すしづめ電車で片道小一時間……」
そして聞いた
「朝夕の通勤は大変でしょう」

彼女が答えた
「ええ 大変は大変ですけど
あっちこっちに ぶつかりながら歩きますから、
なんとか……」

「ぶつかりながら……ですか?」と司会者
彼女は ほほえんだ
「ぶつかるものがあると
かえって安心なのです」

目の見える私は
ぶつからずに歩く
人や物を
避けるべき障害として

盲人の彼女は
ぶつかりながら歩く
ぶつかってくる人や物を
世界から差しのべられる荒っぽい好意として

路上のゴミ箱や
ボルトの突き出ているガードレールや
身体を乱暴にこすって過ぎるバッグや
坐りの悪い敷石やいらいらした車の警笛

それは むしろ
彼女を生き生きと緊張させるもの
したい障害
存在の肌ざわり

ぶつかってくるものすべてに
自分を打ち当て
火打ち石のように爽やかに発火しながら
歩いてゆく彼女

人と物との間を
しめったマッチ棒みたいに
一度も発火せず
ただ 通り抜けてきた私

世界を避けることしか知らなかった私の
鼻先に
不意にあらわれて
したたかにぶつかってきた彼女

避けようもなく
もんどり打って尻もちついた私に
彼女は ささやいてくれたのだ
ぶつかりかた 世界の所有術を

動詞「ぶつかる」が
そこに いた
娘さんの姿をして
ほほえんで

彼女のまわりには
物たちが ひしめいていた
彼女の目配せ一つですぐにも唱い出しそうな
したい聖歌隊のように

イヤです！戦争

島 武代

島充弘が永眠して6年の年月がたちました。私はじめ彼等も2・3年は中心を失い、右往左往の年月でしたが、多勢の方々のお力添えで、少しずつ生活スタイルが整ってきました。そうは言っても彼等にとりましては、1ヶ月前まで生存していたかのように、島のことを話題にしています。心の底にズシッと島が生きているのでしょう。愛すべき彼らです。春号を皆様にお届けできますこと、嬉しく思います。

昨年より一年間に、社会情勢がめまぐるしく動き、大変な世の中になってきました。平和は何もしないところには続かず、悪は何もしないところに忍び寄ってきます。今は急接近です。5月4日、憲法フェスタで小森陽一さん（東京大学大学院教授、九条の会事務局長）の講演を聞きました。

日本国憲法が武力を否定し、平和外交に徹していること。世界の紛争国においても、日本人は平和憲法で守られている、とのこと等、憲法九条の大切さをお話して下さいました。そして会場いっぱいの人々に、至急に一人一人が声をあげ、一人が10人に“九条守れ！”を訴えていきましょーと90分間、熱く、時にはユーモアを交えて語っておられました。

マスコミは秘密保護法と電波法で身動きできず、真実を明らかにしてくれません。それで私たちは、選挙で“NO！”というほかありません。子供や孫達の為に、戦争のない世の中を残さなければ一との思いを強くする昨今です。

スタッフの中山が出演するミュージカル **“鯨波の声”**
をあさひ総出で観劇します！！



山梨憲法ミュージカル 2015 年公演

2015 年 5 月 24 日 昼公演開場 13:00 開演 14:00

夜公演開場 17:00 開演 18:00 です。

詳しくはチラシをご覧ください。公演日が近いこともありチケットの購入には下記までお問い合わせください。特に昼公演は完売の可能性もありますので必ず事前にお問い合わせください（置きチケットや当日券についてもお問い合わせください）

080-9981-0355



特定非営利活動法人あさひ

あさひテレサホーム

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

<http://www.asahi-teresa.com>

TEL 0551-47-3950 FAX 0551-47-4414

asahi-fukushi@cd.wakwak.com

賛助会費・寄付金等

★郵便局振込★ 00220-1- 98254

編集者：中山 正博